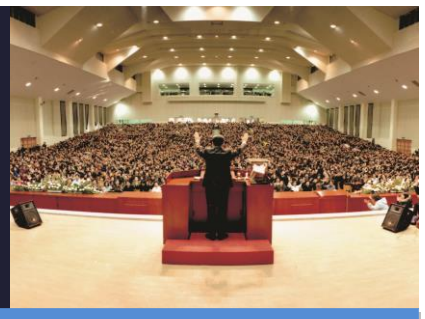
第 2017-34 号

恵みと真理のニュース



2017 年 8 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　教会学校の教師として奉仕する恵みを下さって、私の全てのものを変えてくださった神様を賛美します

私は母のお腹から聖書を聴いて生まれた言わば母胎児信仰です。しかし、学生ごろ真実な信仰で教会に通い、神様に礼拝を捧げたのではありません。学校が休む日曜日には友達と遊べられなくて母に連れられて教会に行かなければならないのが不満でした。それで、教会学校の礼拝時間に説教を聴かなくてたまに、友達と外に行って遊んでから礼拝が終わる時間に合わせて礼拝党に入ったりしました。
受験を控えて高校3年生になって大学進学に対する心配が多くなって初めて切実な心で神様の助けを求めて祈りました。しかし、その時も良い大学に入るようにしてくださるならば熱心に教会にも通い、礼拝も誠実に捧げますと祈りました。大学の進学は自分の願い通りにならなかったです。軍隊に入るときも家から近い所で服務するのを願いましたが自分の願い通りにならなくてカンウォンドの一番北朝鮮と近い部隊に配置されました。その時は大きく落胆しましたが、後で私を練達するためで強い信仰を持たせるため神様の全能なる御心だったのを悟って神様の摂理に感謝しました。 家と家族を離れて軍服務をしながらはじめて神様は私の信仰を深く悟るようにしてくださいました。時によって助けてくださる神様の恵みを経験して無事に軍服務を終えました。そして教会で仕え奉仕する生活を通して神様の大きい愛と驚くな権能を体験しながら私の信仰がもっと成熟されました。真に神様に出会って神様を畏れ委ね愛する信仰生活をするようになりました。
除隊した後、相変わらず主日に教会で礼拝を捧げて家に帰ろうとするとき私が知らない幼稚部の総務先生が訪ねて来ました。まだ、奉仕する部署がないなら幼稚部で奉仕をするのを勧めました。
急な勧めだったしまた、教師の職分を担える信仰と人格の全ての面で足りないと思って迷いました。性格も内気な人で朝早く教会に行って午後遅くまで苦労し礼拝も何回捧げるるのも負担でした。そうするうちに教会学校で奉仕していた姉の強い勧めで仕方なく幼稚部で奉仕するようになりました。
奉仕を決心して探していた幼稚部の礼拝室はあちこちに走っている子供達でいっぱいでうるさかったです。初めて見る子供達と慣れてない雰囲気で気まずかった私の所に子供達が来ました。好奇心がある目で純粋な目で私を見ている子供達の顔がかわいらしくて、初めての印象が今も忘れられないです。この子供たちは自分と違って真実な信仰と愛で神様に礼拝し主の所で育てらるように助けたい心が強く出来ました。自分のためでなく他の人のために切に神様に祈ったことは初めてでした。子供達と苦労する先生達のため、そして私が子供達のためなにが出来るのか私を教会学校で送らせた神様の御心を求め担える能力を求めて神様に祈りました。　そんな私に伝道師は説教を子供達が易しく理解できるように視聴覚の資料を作る役割を与えられました。様々なところが足りないですが、使命感を持って働きました。子供達を集中して耳で説教を聴き目で絵を見ながら、うなずく答える姿を見るとやりがいを感じました。あ！これが祈りの答えであり神様がくださるタレントを使うというのだと思って胸が熱くなりました。このような恵みを下さった神様に感謝しました。
私の全てが以前と確実に変わりました。一番大きい変化は"その子の父親はすぐに叫んだ。「信じます。信仰のないわたしをお助けください。」（マルコによる福音書9：24）、とおっしゃった御言葉を従て自分の能力で可能な事でも不可能な事でも結果に心配しなくて神様に委ねて祈り全身全力を尽くすようになりました。そして、いつも神様に感謝するようになりました。礼拝の時間ことに牧師が話す説教の一節一節に恵まれ感動されました。私の性格と心も変わりました。人の前で立つのが恥ずかしかったですが、今は子供達と先生の前で賛美とふりつけをする時は誰よりも積極的にするようになりました。そうしながら、神様が行う奇跡を多く体験しました。
そのごろ、子供の頃が私と共に教会学校を通っていた友達が一人二人軍隊から帰って来て礼拝だけ出席する姿を見て以前の私を姿が思い出されて気の毒だと思いました。それで、教会で奉仕し献身するように勧めました。友達は私に"私たちがこのように教会で再び会ったのも奇跡だね。" と言いながら笑いました。私の全てを変えてくださった全能なる神様、友達にも私が経験したように真の神様の奇跡を見せてください。このようにもっと熱心に祈りながら続けて勧めました。今、その友たちも私のように教会学校で学生たちを仕えている一方で金曜祈り会と青年奉仕宣教会でも熱心に参席してお互いの心も励ます真実な友達になりました。
私がこのように変化された姿を見て家族はもちろん知り合いの人々も驚きます。いつからそのように熱心に教会に通ったの？もともと積極的な性格だったの？以前は違っただろね？とこのような話をたくさん聞きました。私も知っています。本当に変わりました。以前は考えられなかった生活をしています。それでもっと神様に感謝します。今の私で変えてくださった神様に感謝します。私の欲ではなく神様の御心と神様の栄光のため祈り行う時、神様は私の足りないすべてを与えてくださり、やりがいと喜びもくださいます。
子供達と私と先生達を主が愛してくださって感謝します。魂が救われ神様の子供になったのも感謝するがこのように教会で教会学校で子供達を見守って愛する幸せまで享受するようにしてくださる神様を賛美します。　足りないところが多い私に知恵と能力も与えてください。教師の職分も担えるように導いてくださるのを祈り、神様にすべての栄光を捧げます。

[信仰コラム]　非対称戦力

"．．．ダビデは言った、「主よ、どうぞアヒトペルの計略を愚かなものにしてください」。" （サムエル記下 15:30,31）

朝鮮半島は北朝鮮の赤化統一の欲望と挑発によって一触即発の危機が数えきれなく繰り返されています。聖書には危機を対処して克服する手本になる先例が多く記録されています。私達はこのような記録を通じて教訓を得て見習うべきでしょう。ダビデ王が極端の危機をどのように対処して克服したかを調べてみます。
ダビデの息子の中で権力に対する欲望が強かったアブサロムがダビデ王の王位を簒奪しようと心を決めて反逆を図りました。アブサロムに加わる民の数が多くなりました。アブサロムはダビデの謀士として活躍したアヒトペルを呼び寄せて謀士にしました。急に逃避の道に出たダビデにアブサロムの反逆にアヒトペルが加わったという情報が入りました。これはとても脅威的な消息でした。ダビデはアヒトペルがいかに知略にたける謀士かを良く知っていました。しかし、ダビデには対策がありました。それは神様にお祈りをするのでした。ダビデは直ちにこのようにお祈りしました。"主よ、どうぞアヒトペルの計略を愚かなものにしてください。"そしてホシャイをエルサレムに行かせてアブサロムが有利な作戦計画を立てることができないように作用したり戦略を探知してダビデに知らせる任務を任せました。ホシャイはアブサロムの疑いを払拭させて彼の側近になりました。
アブサロムはまずアヒトペルの謀略を聞きました。イスラエルの全ての長老が彼が言う話しを正しく扱いました。アブサロムはホシャイも呼んで彼の謀略も聞きました。ホシャイの謀略を聞いたアブサロムとイスラエルの全人々はホシャイの謀略がアヒトペルの謀略よりも良いとしました。"それは主がアブサロムに災を下そうとして、アヒトペルの良い計りごとを破ることを定められたからである。"と聖書に記録されました。ホシャイは直ちにダビデにアヒトペルの謀略と自分が立てた謀略の内容を知らせて忠告しました。そうしてダビデは危機を免れ結局、反乱は鎮圧されてダビデ王は王宮に帰りました。この事件には貴重な教訓があります。
第一, 神様の思いに逆らって行うと結局には破滅するということを教訓しています。神様が定められた思いはダビデに続いて王になる後継者がソロモンでありました。従って, アブサロムが王位争奪のために周密に反逆を計画して勢力を形成し、王宮を占領したが結局には無駄になってしまいました。ダビデ時代に最高の謀略であったアヒトペルの謀略も何にもなりませんでした。神様の思いに勝てる謀略はありません。神様の思いに逆らって行う人の結末は破滅であります。アブサロムはヨアブ将軍に殺されました。
第二、神様に頼る聖徒のお祈りは悪い者の謀略を無駄になるようになさるということを教訓しています。ダビデは常に神様に頼ってお祈りしました。反逆者アブサロムの軍隊が王宮に向いて進撃してきて優れた謀略であるアヒトペルがアブサロムに加わったという消息を聞いたダビデは直ちにこのようにお祈りしました。"主よ、どうぞアヒトペルの計略を愚かなものにしてください"。お祈りは敵の謀略を無力にする最も良い武器であります。アヒトペルは故郷に行って首をつって死にました。
私達の国家が処した現実はとてもしんどいです。南北関係と共に近隣国との関係がそうです。いつ戦争が起きるか予測不許です。北朝鮮は大量殺傷が可能な核兵器、生物化学兵器、弾道ミサイル等で私達を脅威しています。砲兵戦力、潜水艦戦力が私達より優れています。このような非対称戦力を友国アメリカの助けがないと私達の力では耐えることができません。私達がこれを恐れることだけではなくそれより卓越な非対称戦力を持つことができるという事実に留意すべきです。それは福音伝道とお祈りです。我が全国民が偶像を捨てて誠な神様、イエスキリストの神様に頼ると神様が私達の盾になってくださるでしょう。私達は励んで福音を述べ伝えるべきです。そして神様に頼って"神様、どうぞ赤化統一を画策する者達の謀略と計策を愚かなものにしてください。"と昼夜に求めるべきです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

イエス・キリストによる信仰

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

信仰が全くない人はいません。自然現象や、自分の身体機能および家族や隣りの人の信仰がすべて失われてしまったら、通常の活動をしていないだけでなく、一時も安定した心を維持することができないでしょう。信仰は生存のための能力であり、また不可欠な要素です。そして、信仰はそこに相当する結果を招きます。その結果が重大なものもあります。したがって、何を信じて、あるいは何に起因する信仰を持っているのかは誰にも非常に重要です。今日は人が必ず持つべき大きい信仰とその信仰のみなもとと起源について説明します。
本文に「 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエス様を仰ぎ見つつ 」としました。「信仰の主 信仰の導き手 」という呼称で「主」と翻訳された聖書の原語は、「スタート」または「みなもと」を意味する言葉と「 導いて行く」を意味する言葉の付き合いて構成される用語です。イエス様は、信仰の源です。信仰が始れる方です。信仰の出発点です。信仰の創始者です。そして、「全うされるが」という呼称は、「完成される者」という意味があります。「信仰のもう全うされる方イエス様」という言葉を「イエス様は信仰の出発点でありまた終着点であります。」「イエス様は、信仰の創始者であり完成者であります。」「イエス様は、私たちが必ず持たなければならない信仰を持つようにしてくださるだけでなく、その信仰のとおりになさてくださる方である。」と説明することができます。イエス様による信仰を持つためには、イエス様を見つめなければならないです。
神様のひとり子イエス様は、私たちにもしわけないほど、幸い信仰を与えようと処女の体に聖霊によって生まれて人で世の中へ来られました。罪人をあがないされようと恥を気になさらず、十字架に釘つけられて死んで苦難を耐えました。そして復活し天に昇り神の御座に座りました。
聖書は、イエス様の記録です。イエス様が言うのを"あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。」（ヨハネによる福音書，5:39）しました。したがって、心を開いて耳を傾けて、聖書に記録されたイエス様について聞く人は驚くべき奇妙な信仰を持つようになり、その信仰のとおり行われることを経験することになります。
使徒行伝 3 章、4 章でこれらの事実を示した事件が記録されています。
午後 3 時の祈りの時間にペテロとヨハネが宮に上がっていました。ペテロとヨハネは、みやの門の前で物乞いする身体障害者を見ました。ペテロとヨハネが身体障害者を注目しながら、「私たちを見てください。」と、身体障害者が頭をあげて見ました。「 ペテロが言った 金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」 こう言って彼の右手を取って起してやると、足と、くるぶしとが、立ちどころに強くなって、踊りあがって立ち、歩き出した。
そして、歩き回ったり踊ったりして神をさんびしながら、彼らと共に宮にはいって行った。生まれながら 40 年を歩くのができなかった人が完全に治って歩いて走って神を賛美しながら、ペテロとヨハネと一緒に 神をさんびしながら、彼らと共に宮にはいって行った。
その光景を見た人は深く驚い奇異に考えました。この時、ペテロは群衆に叫びを「 そして、イエスの名が、それを信じる信仰のゆえに、あなたがたのいま見て知っているこの人を、強くしたのであり、イエスによる信仰が、彼をあなたがた一同の前で、このとおり完全にいやしたのである。」としました。ペテロは身体障害者が奇跡的な苦境を受けられた 3 つのポイントを言いました。 第一に、「その名を信じたので」としました。第二に、「この名前が、この人を完全にいやしたのである」としました。第三に、「イエス様のゆえの信仰がよくいやしました。」といいました
イエス・キリストによって、私たちが持つことができる信仰は、その内容が多いです。その中でも 六つだけ見てみましょう。

第一に、あがないの信仰です。

すべての人は神様の前に罪人です。これらの人生のために神様が救い主であるイエス様を送っていただき、私たちの罪を贖いにしてくださったのです。そして罪人に要求されるのは、ただ信じるということしかありません。人が罪からの自由を得るようになる道は、キリスト・イエス様のよるあがないを信じる信仰以外ありません。ローマ人への手紙 8 章に「こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない」（ ローマ人への手紙，8：1）としました

第二に、永遠の命の信仰です。

この世で生きる間、永遠の命を得られなければ、肉体の死が第二の死への玄関口となります。肉体の死は、最初に死亡で第一の死です。最後の審判を受けて、火の池に投げ込まれるのが第二の死です。ヨハネの黙示録 20 章に記録されることを
「海はその中にいる死人を出し、死も黄泉もその中にいる死人を出し、そして、おのおのそのしわざに応じて、さばきを受けた。それから、死も黄泉も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。 このいのちの書に名がしるされていない者はみな、火の池に投げ込まれた。「（ ヨハネの黙示録 20：13～15）としました。永遠の命を得た人々は、イエス様の再臨の前に死んでも、イエス様の再臨のときに生きていても、すべてが 第二の死はありません。永遠の命の信仰はただイエス・キリストのゆえのためです

第三に、神の子どもとされる信仰です。

イエス・キリストを信じる私たちの魂が生まれ変わる変化を受けるようになります。 ヨハネによる福音書，1 章 12,13 節に「しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。 それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。 」しました。神様から生まれるの神秘的な出生をした人は、神の子供になります。そして、神を父と呼ぶようになります。ローマ人への手紙 8 章 15,16 節に「あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは「アバ、父よ」と呼ぶのである。御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。 "としました

第四に、いやしの信仰です。

イエス様の贖いの恵みの中では、私たちの弱いといやしの病気の治癒も含まれています。イエス様はこの世におられたとき、弱い者と病人を数えることができずに、いやしました。これらのイエス様の癒しの働きについて、聖書にはこう書いていま「 夕暮になると、人々は悪霊につかれた者を大ぜい、みもとに連れてきたので、イエスはみ言葉をもって霊どもを追い出し、病人をことごとくおいやしになった。これは、預言者イザヤによって「彼は、わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うた」と言われた言葉が成就するためである。（ マタイによる福音書，8：16,17）

第五に、神の世話を信じる信仰です。

この世の中には、絶えず誘惑と迫害と患難が迫ってきます。しかし、神様は私たちと一緒にし助けてくれたと言われました「 恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。」（イザヤ書 41： 10）と言葉で契約しました。したがって、我々は、ヘブル記者のように、神の世話を信じる信仰を持ってこのように言うことができます。「 だから、わたしたちは、はばからずに言おう、「主はわたしの助け主である。わたしには恐れはない。人は、わたしに何ができようか」。 」（ ヘブル人への手紙，13：6）

第六に、天国と復活の信仰です。

イエス様は、「悔い改めよ、天国は近づいた。」と叫びました。ヨハネの黙示録 21 章にこう記されています。「 わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった。また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。 また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである」（ ヨハネの黙示録，21：1～4）イエス様によって、天国への信仰を持つ人は、実際に天国の栄光のうちに住むでしょう

私たちが持っている信仰が私たち自身の存在と生活に影響を与えないことがありますが一方で非常に大きい結果を与えるものがあります。イエス・キリストによるの信仰があるのかないのかは、この世と永遠に伸びる大きい結果を招きます。罪の赦し、永遠の命、神の子供、癒し、神様の世話、天国と復活を信じる根拠は何ですか？という質問に対して、あなたは「十字架につけられ死なれ、死から復活されたイエス・キリストです。」とためらいなく答えてください。イエス・キリストは、私たちのあがない、永遠の命、神の子供、癒し、神の世話、天国と復活の信仰の源であります、これらの信仰を持つ聖徒たちに、その信仰のとおりなるようにしてくださいます。あなたはイエス・キリストにによる信仰を持っていることを考えると、ハレルヤ賛美が自然に出てくることを願っています。